

# 道徳地区公開講座

## 1年

教材名「みまもってくれる人」～感謝～

見守りボランティアの方に感謝の気持ちを伝えようとする「ほく」の姿から、お世話になっている人について考えました。普段の生活を思い浮かべたとき、「学校に来るときに交差点で見守ってくれている」「門のところに警備員さんがいるよ」「給食の準備をしてもらっている」など、たくさんの人にお世話になっていることに気がきました。学習の最後には、お世話になっている方にお手紙を書きました。

【見つけた「お世話になっている人」】

- ・おうちの人
  - ・見守りボランティアさん
  - ・警備員さん
  - ・給食配膳員さん
  - ・ともだち
  - ・習い事の先生・コーチ
- など…



## 2年

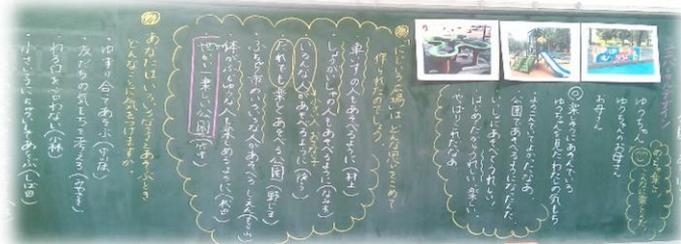
教材名「みんなの公園で あそぼう」～親切・思いやり～

府中の森公園には、どんな人でも楽しく遊べる「にしいろ広場」があることを知っていますか？滑るところがまっすぐになっている滑り台や、お花の形をしたテーブルのような砂場があります。

「あー！遊んだことある！」「あの不思議な形は、そんな意味があったんだね」と、子ども達にとって身近な公園の遊具が、みんなにやさしく作られていることに気がきました。学習の最後には、ユニバーサルデザインについて考えました。

【みんなで仲良く遊ぶために…】

- ・ゆずり合って遊ぶ。
- ・小さい子に気を付けて遊ぶ。
- ・相手のペースに合わせて遊ぶ。
- ・ふわふわ言葉を使って遊ぶ。



## 3年

教材名「ほくの郷土かるた」～郷土愛～

授業では、府中市で昔から受け継がれている郷土かるたを題材に、今と昔で変わったこと、変わらないこと、を話し合いました。古くから大切にしてきた歴史や文化、自然を守ることなどは、ずっと変わらずに受け継がれていることが分かりました。その中で、人々が暮らしやすいように変わってきていることもあり、より良くなっていることに気がきました。

【児童のワークシートより】

- ・自分も自然や文化を守りたい
- ・便利なまちにもしたいから、残すものと変えるもののバランスを考えたい
- ・みんなの思いが詰まっている歴史を大切にしたい
- ・まだこのことを知らない人達に伝えたい



## 4年

教材名「多摩川のごみ拾い」～勤労・公共の精神～

多摩川市民清掃運動に初期から関わっているおじいさんの話から働くことについて考えました。50年前は水質が保たれておらず、汚れた状態が続いていた多摩川ですが、保全活動や清掃活動のおかげで今の綺麗な状態が保たれていることを知りました。おじいさんのようにみんなのために自分はどんなことができるか考えました。

【児童のワークシートより】

- ・自分の周りで働いてくれている人たちに感謝したい。
- ・ごみ拾いなどのイベントに積極的に参加したい。
- ・自分たちも浅間山の動植物を大切にしたい。
- ・未来の社会を守るためにボランティア活動に参加してみたい



## 5年

教材名「世界一の花火師 ―ギネスブックへの挑戦―」～希望と勇気、努力と強い意志～

府中市出身の花火師、小勝さんが「世界一大きな花火を打ち上げる」という目標に向かう姿を通して、夢の実現について考えました。「夢に向かうってどういうこと？」授業の始めに問い

かけた質問の回答を、クラスメイトと意見を交わしながら、自分なりの答えを見つける45分間でした。

【児童の発言やワークシートより】

- ・夢に向かうためには、まず目標を見つけることが必要
- ・限界と思わない限り、努力を続けていく
- ・一つの目標を叶えたら、さらに上の目標を見つけたい
- ・夢に向かうとは、一生努力を続けていくということ
- ・小さな目標を積み重ねていくことが、大きな目標を達成することにつながる



## 6年

教材名「大賀博士を支えた人々」～感謝～

大賀博士とは、二千年前の蓮の発芽を成功させ、府中市郷土かるたの「に」の読み札、

「二千年蓮の大賀博士」として有名な方です。蓮の種を発芽させようと努力を続ける博士と、

博士を支える周囲の人々の姿を通して、私達の生活が多くの人の支え合いや助け合いで成り立っていることに気付きました。そして感謝の気持ちを持ち、それを表現していくことの大切さについて考えました。

【児童の発言やワークシートより】

- ・「ありがとう」という言葉は本当に大切。私は、その言葉に加えて「努力」で応えていきたい。
- ・色々な人に支えられているということを考えながら、支え合っていることを思いながら、支えてくれている人に「行動」で恩返しをしていきたい。
- ・自分を支えてくれている親に、親孝行をしていきたい。



3校時には、調布 FM のディレクター岩松様とパーソナリティ長谷川様をお迎えして「伝えること」についての特別授業に、5・6年生が参加をしました。

調布 FM では、毎週金曜日に府中刑務所内で「けやきの散歩道」という番組を放送しています。お二人をお迎えして、ラジオの存在意義や地域貢献について、ラジオに込めた思いなどをお話いただきました。

ラジオというメディアがあることは知っているても、普段の生活で聴く機会は多くないといった反応の児童たち。

ディレクターの岩松様より、  
「ラジオは非常時に広く情報伝達を行うことができる。非常時に備えて、普段から楽しめる番組を流しているのだ。」  
というお話を伺いました。



また、事前に6年生から募ったアンケートをもとに、原稿をご準備いただき、ラジオ実演を目の前で視聴しました。パーソナリティの長谷川様の心地よい声と語りかけるような話し方に、児童の姿勢は自然と前のめりになっていました。



#### 授業後の感想からは

- ・ラジオを聞いてみたくなった。
- ・府中刑務所という場所でラジオを放送していることは知らなかったのが、驚いた。
- ・地域貢献のために活動しているのがすごいなって思った。
- ・長谷川さんの声がきれいで、聴いていて気持ちがよかった。
- ・友だちの好きなことや思っていることが知れて楽しかった。

などという感想が聞かれました。

ラジオというメディアに対する興味や、ラジオを通して顔の見えない相手とつながることの楽しさを感じた様でした。

